

市場から離脱した空き家に経済価値を持たせるには、空き家が増加するまち自体を活性化していくことが必要である。コミュニティ創生と空き家活用を進める実例から、人材育成と効果的プロジェクト運営を検討し、広報手段を整備する。

■ 事業概要

事業部門	部門3 ポストコロナ時代を見据えて顕在化した新たなニーズに対応した総合的・特徴的な取組を行う事業
事業地域	兵庫県全域、主に、神戸市、明石市
背景・課題	過去のすまい研での取組みより、空き家の利活用はその空き家自体の付加価値付けの課題に取り組むだけではなく、その空き家が存在する地域コミュニティを活性化することが必要と考えられている。 地域コミュニティと空き家を紐づけて、公共的な側面をもって、地域のまちづくりに必要なものは何かを考えるにあたり、コミュニティの交流とまちづくりの議論がおこるイベントや場づくりを行う必要があるが、その手法について、総合的に取りまとめをする必要がある。
目的	地域コミュニティと空き家を紐づけて、まちづくりの議論をすすめ、対象空き家の具体的活用が進むコミュニティが創生されることを支援する伴走支援のプログラムの提供手法を検討する。 また、そういったコミュニティにおいては、新たなファシリテーターとして活動する「人」の存在が欠かせず、どういう知識や経験が、そのような「人」＝「空き家まちづくりマネージャー」の教育につながるのか、そんなアカデミーの必要とされる体制について検討する。
連携する団体・役割	KDUまちづくり研究会、リタワークス(株)、(株)神戸新聞社、兵庫県、神戸市、明石市

■ 取組内容と成果

□ 取組内容

- ・地域コミュニティ再生を行いながら空き家の利活用つなげる、「チームすまい研活動」を定義する。
- ・「チームすまい研活動」を行うのに必要な「人」を育成していく手法を検討する。（空き家まちづくりアカデミーの検討）
- ・「チームすまい研活動」の運営手法について2つの実例から支援プログラムを検討する。（コミュニティ活性プログラムの検討）
- ・「チームすまい研活動」を告知し活動範囲を広げるためのWEBサイトを構築し、活動拡大を目指す。

□ 成果

- ・空き家まちづくりアカデミーのプログラム構築、地域コミュニティ醸成支援プログラムの構築とその情報を公開するホームページの構築
- ・大学生を交えた地域コミュニティ醸成支援プログラム構築のための具体的試行の実施。（イベント対象地域：2地域（神戸市西区平野町黒田および明石市材木町、ミーティング回数：計16回、延べ参加人数：学生延べ124人、地域住民延べ25人、官公庁職員延べ8人、イベントの実施：3回/2地域）
- ・空き家まちづくりアカデミープログラム構築のための具体的試行の実施（ミーティング回数：15回、延べ参加人数：学生延べ25人、地域住民延べ8人、官公庁職員延べ15人、公開座談会の実施：1回）